

## ◎地域新聞（創刊順）

東大阪新聞 昭和二二二年（一九四七）六月、和歌山県御坊出身で八尾在住の三栖元氏が創刊し、のち長男の吳氏が発行兼編集を務めた地域新聞。元氏は郷里で地域新聞の経験を持ち、昭和七、八年ころ八尾に来住した際、「菊水日報」という中河内地域の地元紙の発行をしていたが、戦時に廃刊。本紙はいわばその復刊にあたる。当初は八尾を中心に市政や市域の社会、経済、文化に関する記事を掲載。また中河内の歴史をテーマとした「河内史談」を、創刊初期から昭和三〇年まで連載する（のち『河内史談』（全四巻）として刊行）。今東光氏らが健筆をふるつた。

昭和三一年、布施（東大阪市）に本社を置く「中外タイムス」（編集发行人高松朝雄氏）と合併し、新たな「東大阪新聞」となる。しかし、ほどなく三栖昊氏が退き、広く中河内地域（東大阪・八尾・柏原）の地域新聞となる（新聞題字は「東大阪」、日刊のころは「日刊東大阪」）。笠松三郎氏、佐治史郎氏が編集发行人を務める。現在は小野元裕氏が編集发行人を務める。東大阪市小阪本町に本社、八尾市山本町南に八尾柏原支社を置く。

河内新聞 昭和三一年七月創刊の地域新聞。和歌山県出身で八尾在住の東康子氏が創刊。当初は旬刊のタブロイド判二頁であつたが、創刊二年で週刊、三年めからは日刊紙大に紙面が拡大化するなど、発刊当初は、東大阪新聞の合併の影響もあり、八尾における唯一のローカル紙の立場であつた。昭和三五年には布施市・河内市・枚岡市（東大阪市）に支局を開設するなど、広く中河内地域を対象とした地域新聞となる。昭和五二年六月からは、東大阪新聞に長く関わった小山博氏が経営を引き継ぎ、昭和五六年には新体制（河内新聞有限会社）となる（発刊号数をリセット）。平成五年（一九九三）には株式会社河内新聞社となり、現在、三谷真一氏が編集发行人を務める。本社は八尾市安中町に置かれている。